

研究テーマ 少数集団の紛争処理制度の研究

所属 学術研究部教育研究推進系

准教授 吉井千周

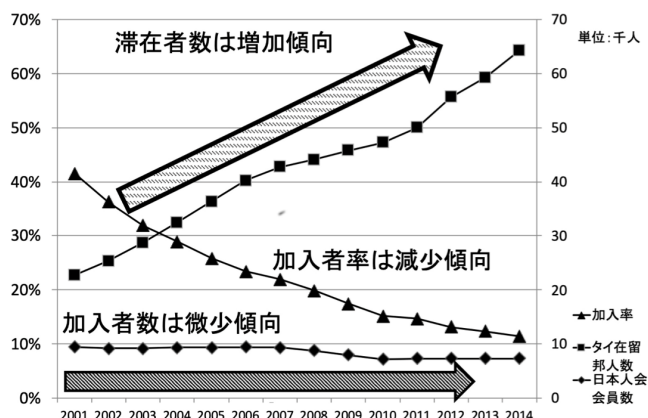
研究の背景及び目的

近代化政策を押し進める発展途上国では、政府主導による地域開発が実施される一方で、それらの開発を原因とする環境破壊や生活環境の破壊といった先住民族・少数民族への権利侵害が多々生じています。本研究では伝統文化に基づいた紛争処理手段を持つ少数民族が近代国家の中で生活するにあたり自らの法規範と国内法との適合の様態について研究を行っています。また近年はタイに形成された日本人コミュニティのあり方や日本国内における人権問題についても研究を進めています。



■ おもな研究内容

近年の研究テーマ 海外邦人社会の変化について



これまで海外邦人社会では、非常事態発生時や長期滞在者の生活困窮化について各国日本人会がセーフティネットの役割を果たしてきた。しかし日本人会の加入率は低下の一途を辿っており、かつてほどの力を有していない。近年の研究では、日本人会に代わるものとして東南アジア各国で発行されている日本語フリーペーパーの役割に注目し、各国の邦人サークル活動などの自発的なつながりによる在留邦人コミュニティの形成を示した。ポストコロナ時代における在留邦人ネットワークの実情を解明しようとしている。

期待される効果・応用分野

SGDs視点から見た少数民族の人権問題／東南アジアを中心とした海外で生活する困窮日本人の支援／日本国内における政治的弱者（開発地域住民・女性・子ども・公害発生地域）のサポート／日本国憲法の改憲問題

■ 共同研究・特許など

吉井千周(2004)「変容する山地民の紛争処理—モン族の離婚紛争を事例として」アジア女性交流・研究フォーラム『アジア女性研究』第13号, 76-83頁

吉井千周(2016)「固有法の適応と変容：在米モンコミュニティの誘拐婚を事例として」『アジア法研究 2015』, Vol.9, No.1, pp. 1-18

研究分野	法社会学
キーワード	モン族、女性、法社会学、人権

研究室URL : <http://www.senshu.asia>